

としょぶらり

米子高専図書館報

ISSN 1344 - 5634

第103号

平成29年8月4日 発行
米子工業高等専門学校図書館

読書の大切さ

図書館長・リベラルアーツセンター長 布施 圭司

今後ますます技術者には創造力が求められるようになり、発想が豊かであることは必須と言えます。豊かな発想は、幅広い知識と視野をもち、自由に精神を働かせることで生まれると言えるでしょう。

知識や視野を広げるために、課外活動や社会体験ももちろん有益ですが、とりわけ読書は適しています。時間と空間の制約を越えて、離れた時代や場所について知ることができます。大人になると実用的な本が中心になるので、視野が狭くなります。時間に追われ、仕事のために必要な本や、すぐに役に立つ実利的な本しか読めなくなります。学生時代は自由に知的世界を逍遥（散歩、放浪といってもよいです）できます。日々の必要、利害損得にとらわれず、広大で深い探索の旅に出ることが可能です。幅広い知識と視野という土台は大人になる前に作られる、といっても言い過ぎではありません。

その土台の上で、精神が自由に活動することによって新しいものは生まれると思います。抗生物質ペニシリンの発見が、ペニシリンを生成するカビを、菌の中に誤って落としてしまったことに由来することは、よく知られています。他にも多くの発明は失敗や偶然から生まれています。また、従来にはなかった発想が発明のもとになる場合があります。青色 LED は、多くの開発者が「無理」と決めつけていた窒化ガリウムを素材にすることで生み出されました。定式にとらわれずに自由に試みる態度が大事と言えます。失敗を恐れ委縮して、新しい試みをしなくなれば、進歩はありません。文化・芸術といった自由な精神活動が活発でなければ、科学技術の発展もないのではないのでしょうか。

そして幅広い知識と視野は、新しい知識の社会的意義、社会にとってどのような意味をもっているか、を考えるためにも不可欠です。得られた新しい知識を何に应用するか、どう生かすかは、社会が何を必要としているか、人々が何を要望しているか、時代がどう動いているか、を察知する感性にかかっています。社会に対する洞察は、社会や他の人との交流によって得られますが、その交流を広く深いものにするためには、幅広い知識と視野が必要です。社会への洞察が不十分だと「ガラパゴス化」してしまいます。「ガラパゴス化」は、優れたものを日本において作りあげても、世界の流れを見誤り、主流となった仕様から外れてしまうことです。世界標準のものが性能等では劣っていても、グローバル化が進んでいるため、価格が低くなったりソフトやサービス面で使い勝手がよく

なって、結果として日本でも流通することが多いようです。さらに、視野が狭いと、社会に損害を与えたり、人間性に反するものを発明・製作してしまうかも知れません。自分の行為や作成物の（長期的な）社会的影響を意識し、責任をもつことが必要です。

また現代は時代の流れが速く、先行きは不透明で、どう変化するか予測困難です。一つの考え方にとらわれると、立ち行かなくなることがあります。そのような状況に陥ったら、多角的に物事を見て、場合によっては考え方を大胆に切り替えることが必要です。別の選択肢を検討するためにも、幅広い知識や視野は不可欠です。

従って、学生の皆さんにはできるだけ多くの本を読むことをお勧めします。読んでみて、自分に合わなかったらやめて、別の本に当ればよいと思います。少々わからない事が出てきても、読み飛ばせばよいのではないのでしょうか。自分が気に入った本があったら、じっくりと取り組むのもよいと思います。何度手にとっても貴重なことが得られる「一生もの」の本に出会えるのは幸せなことです。多くの人が評価するものはそれなりに面白いかも知れませんが、自分の尺度で判断することも大事だと思います。選択を失敗することもあるでしょうが、その失敗によって自分の好みや自分にとって必要なものが明らかになります。また自分の好みとは違う本をたまに読むと、新しい発見があるかも知れません。

自分を振り返って思うのですが、あれこれやらねばならないことがあると、実利的ではない本を読む気がおこりません。忙しくても短時間なら本を読むことができるはずですが…。多分、心のゆとりのなさが原因です。当面のことばかりにとらわれず、大きな気持ちで生活することが大事と思われれます。

目次

読書の大切さ	1
新任教員おすすめの本	2
図書委員から図書館に関する紹介	3
6月20日開催のビブリオバトルに関連して	4
「リベラルアーツ談話会」をはじめました	5
図書館統計	6
学生図書委員一覧	7
新着図書一覧	8
編集後記	9
読書会についてのお知らせ	10
米子高専 文化セミナー	10

新任教員おすすめの本

『修身教授録』到知出版社 1989年

森 信三 著

建築学科 天野 圭子

「修身」とは、①旧制の小・中学校の教科目の一つ。道徳教育が中心。②自分の行いを正しくするようにつとめること（岩波国語辞典より）とあります。

この本は、著者である森信三氏が、大阪天王寺師範学校（現・大阪教育大学）で昭和12年からの2年間、旧制度の小学校教員養成課程で学ぶ17、18歳前後の学生に向けて行った「修身」に関する講義がまとめられたものです。

師範学校での講義ではありますが、人生の歩み方、その心の持ち方について説かれており、人生観を養うという意味で教職を目指す方だけでなく、将来どのような職業を目指す方にもぜひ読んでもらいたいと思う一冊です。（インターネットで検索をしてもらおうとわかりますが、多くの実業家も愛読書としています。）

ハードカバーで500頁を超える読み応えのある本ですので、はじめはなかなか読み進めることが難しいな、と思うこともあるかもしれません。少し読むでは休み、また気が向いた時に読む、という読み方でもよいのではないかと思います。

本というのは、同じ内容であっても読んだその時々で受け止め方が異なるものであり、特にこの本はみなさんのような10代後半から20代前半の多感な時代から、その後の人生においても繰り返し読むことで、その都度、新たな発見を与えてくれるものです。この「修身教授録」は、人生をかけて長く付き合うことのできる本として薦めたいと思います。

『さよなら妖精』東京創元社 2004年

米澤 穂信 著

教養教育科 原田 桃子

私が紹介したい一冊は、米澤穂信『さよなら妖精』という小説です。

舞台は、1991年4月の日本。高校生の主人公は、異国からやって来た少女と出会い、彼女と謎にあふれた日常を過ごしますが、やがて彼女は帰国してしまいます。少女の帰国後、主人公にはひとつの謎が残され、それを解明しようとする、日常系ミステリー作品です。

主人公が出会う少女の出身国は「ユーゴスラヴィア」といって、今は地図帳には載っていません。しかし、小説の舞台である1991年4月時点では存在していました。ユーゴスラヴィアは6つの共和国が連邦を成す社会主義国でした。作中、少女はユーゴスラヴィアには「文化がない」と言います。各共和国の文化はあってもユーゴスラヴィアの文化はない。国を一つにまとめるには一つの文化が必要で、そのユーゴスラヴィアの文化を作るため、見聞を広げに日本へとやって来たのだ、と。しかし、彼女が日本に飛んできてまで文化を作りたいと願ったユーゴスラヴィアは、内戦により崩壊してしまいます。

小説を読んだ当時、私も主人公同様高校生でしたが、少女のように、国のために何かをしようと思ったこ

とは一度もありませんでした。まして、ユーゴスラヴィアなる国もよく知らなかったのです。小説はフィクションですから、彼女のような人が存在したかは不明です。それでも、内戦は現実には起こり、少年少女を巻き込んで、悲惨な結果を生みました。この小説を読まなければ知らなかったであろう現実には、衝撃を受けたのを覚えています。なぜ人は国を求め、なぜ人は争うのか。考えさせられた一冊です。

本は私たちに様々な世界を教えてください。たまにはじっくりと、知らない世界と向き合ってみてはいかがでしょうか。

『時間と自由』岩波文庫 2001年

アンリ・ベルクソン 著

教養教育科 藤本 晃嗣

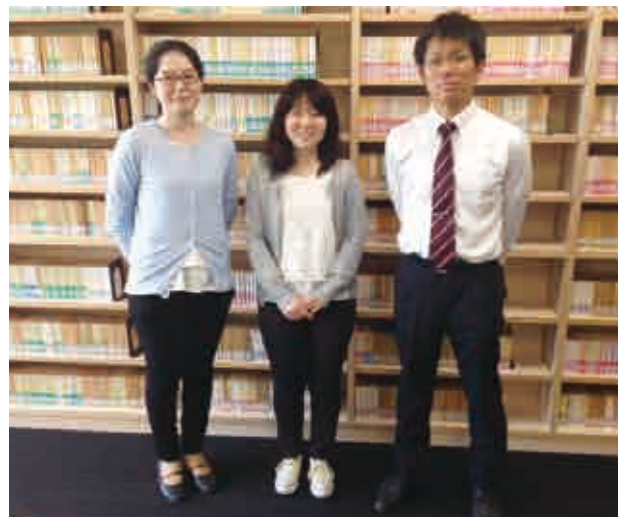
※「ちくま学芸文庫」に『意識に直接与えられたものについての試論』としてもあります。

「過去」に戻れるタイムマシン、存在すると思いますか。そもそも「過去」に戻る、というか、「過去」って一体何なのでしょう。グラフなどでよく横軸を時間、縦軸を変化で表したりしますが、そうするとあたかも横軸を右へ行けば「未来」へ進み、左に行けば「過去」へ戻れるような気がしてきます。じゃあ、「過去」というのは、グラフの横軸を移動するみたいに、私たちが移動することでたどりつける「場所」みたいなものなのでしょうか。そもそも、私たちが生きている世界の「時間」って、グラフの横軸みたいなものなのでしょうか。

「時間」をめぐる有名な問題として、「アキレスと亀」の話があります。俊足で知られるアキレスと鈍足の亀が競争をしますが、アキレスは亀より少し後ろでスタートします。競争が始まると、アキレスは猛烈ないきおいで亀に追いつき、そのまま抜き去っていく……、はずですが、なんとアキレスは亀に追いつくことすらできません。なぜか。アキレスは亀より後ろからスタートしたのですから、亀がスタートした位置に行くまでに時間が必ずかかります。その時間の中に亀がスタート位置より少しは進みます。再び、アキレスが亀のスタートした位置から、先ほど亀の進んだ位置まで走ると、やはり時間がかかりかかりますから、亀が少しは進みます。再びアキレスが先ほど亀の進んだ位置まで走ると、やはり時間がかかりかかりますから、亀が少しは進みます。〔以下繰り返し〕ということで永遠に亀はアキレスの前にいるということです。これは、古代ギリシア以来の「時間」をめぐる難問です。

さて、本書はこのような「時間」をめぐる疑問に挑んだ哲学書です。哲学書と聞くと、多くの人が「難しそう」や「意味がわからない」、「一体何のやくに立つの?」と思うかもしれませんが、その意見はもっともです。私の専攻は文学ですので「哲学とはなにか」みたいな問題を語ることはできませんが、哲学の難しさなら語るができます。この本も、5年間で4回挑戦して、3回は文字を目で追うだけで終わりました。それでも、4回目に読み終えたとき、今までの世界が一変して、新しい視界が開けてくる感覚は、何とも言えない快感でした。この本は難

しいですし、多くの人にとって意味がわからないでしょう。がんばって時間をかけて読んでみても、文字面を追うだけで終わる可能性は極めて高いですし、例え理解できてあなたが日常生活を送る上で即座に何らかの利益を得ることはほとんど見込めません。今の世の中、スマホがあればもっと楽しく時間が過ごせますし、おもしろい漫画や小説ならいくらでも思いつきます。人間性を豊かにしてくれる本や人生を生きる上で有益なアドバイスが書かれた啓蒙書・伝記は巷にあふれています。この本を読むための労力という「コスト」を考えると、極めて「リターン」が少ないという予想は、さほど合理的な思考の持ち主でなくても見通せます。それでも、忙しい毎日の中ふと立ち止まって、「「過去」って何」、「「時間」って何」、「「自由」であることってどういうこと」というような疑問を持ち、考えて、悩んだとき、この本は何かをあなたに与えてくれると思います。



左から原田先生、天野先生、藤本先生

図書委員から図書館に関する紹介

図書委員長 電気情報工学科 3年 種 香夏

読書会のすゝめ

皆さんはこの学校で行われている読書会について知っていますか？米子高専では2年前から読書会が開かれるようになりました。回毎に指定されている本を各自事前に読んできて、会当日はその本について自由に感想を話して語り合います。ストーリーや主張について、作者の遍歴、表現力、装丁など話す内容は多岐に渡りいつまで経っても話題は尽きません。また参加者も学生はもちろん先生など大人の方も来られるので、新たな考え方や知識、幅広い意見を知る事ができる貴重な機会でもあります。

本を読み終えた時、誰かに感想を話したいと思った事がある人、他の人はどんな感想を持つんだろうと気になった事がある人はぜひ読書会を覗いてみて下さい。

図書委員 建築学科 2年 山田 ゆかり

小中学生の時には沢山本を読んでいたのに、今では本を読むことが少なくなったという人はいませんか？少なくとも私はその1人です。寮生活や部活、勉強で忙しくなり、自由時間が少なくなって本を読むことが減ってしまいました。

しかし、最近になってまた本を読み始めました。今も忙しい事には変わりません。しかし、夜の寝る前の10分程度を使って読むようにしたら、本をどんどん読めるようになりました。私はそこまで睡眠時間は削りたくないので1度に一気に読めませんが、それでも1日1日、読み進めることが出来ます。

高校生の多感な時期にさまざまな作品に触れることは大事な事だと思います。最近本を読めていない方など、夜の時間を使って少しずつでも本を読んでみませんか？

副図書委員長 物質工学科 2年 平井 塁

皆さんはビブリオバトルに参加したことがありますか？僕は、米子高専で図書委員会に入ったことをきっかけに初めてビブリオバトルを知り、参加しました。

参加してみて、5分間は長いように見えて短いのだなと感じました。参加するまでは5分間本の紹介をするのは難しいと思っていましたが、いざ紹介し始めるとあっという間に終わってしまいます。その後のディスカッションは質問に答えることを通し、さらに本への見方を深めることが出来ました。また、本の紹介を聞く立場としてもビブリオバトルはとても楽しめるものでした。自分も好きな本の紹介に共感したり、自分がまだ知らなかった本との出会いがあったりし、より本を好きになることが出来ました。

ビブリオバトルには気軽に参加できます。まだビブリオバトルに参加したことのない皆さん。是非一度参加してみてはいかがでしょうか。

図書委員 物質工学科 3年 杉本 メグ

こんにちは。皆さん、最近本を読んでいるでしょうか？図書館なんて、参考文献ぐらいしか探さない、そもそも図書館で本を借りたことがないという人も多いと思います。図書館には最近話題の小説、人気のライトノベルやエッセイといったものもあります。街の本屋さんに行くような気分で、一度高専の図書館に立ち寄ってみただけなら幸いです。

6月20日開催のビブリオバトルに関連して

図書館長補・リベラルアーツセンター員(教養教育科・国語) 辻本 桜介

2015年度より、本校図書館情報センターでは、学生図書委員の企画による「ビブリオバトル」を開催しています(教員が混ざったという話も聞いたことがあります)。以来、「ビブリオバトル」の結果を本誌にて報告してきましたが、そもそも「ビブリオバトル」とは、次のようなものです。

【ビブリオバトルの公式ルール】

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

※2017年6月28日時点で参照したビブリオバトル公式ホームページ (<http://www.bibliobattle.jp/koushiki-ruru>) に拠る。

6月20日(火)に本校で行われたビブリオバトルでは、発表者が本の紹介を通じてそれぞれの個性を大いに発揮していました。ここでは、個々の発表を詳しく取り上げることはできませんが、聴衆の一人として居合わせた私の目から見て特に新鮮に映ったのは、建築学科4年生の小椋一磨君による本の紹介でした。『夜空と月の物語』は、写真集のような体裁の本で、一般にイメージされる「読書」という行為の対象とは言い難いものです。しかし、投票の結果、一定数の票を確保しました。ビブリオバトルでは、著者の知名度やジャンルといった、本そのものの性格よりも、発表者による紹介のあり方やその後のディスカッションこそが勝敗を左右します。私は、本を読むことは殆ど無く、有名な小説の類も全く分かりませんが、これまで読んだ数少ない本のうちの一つを携えて、発表者として参加することもできるのではないかと感じました。学生の皆さんの中にも、私と同様に、本から遠ざかりがちなのも少なからず居ることと思いますが、一つ何かやってみるかという気まぐれさえ起こせば、ビブリオバトルへの参加は容易であり、かつ楽しいものとなるはずです。

ところで、ビブリオバトルの歴史はここ10年ほどのようで、かなり新しいものと言えます。しかし、すでにビブリオバトルを活用した教育実践や研究例の蓄積も少なからずあるようです(国立情報学研究所によるデータベース「Cinii」で「ビブリオバトル」を検索するだけでも60件以上を見出せます)。本を選び、読み、他者に紹介し、意見や質問に回答する、という一連のプロセスは、あらゆる分野において、必要な力を養うものになるのでしょうか。これは、本校の特色であるリベラルアーツ教育にも、役立つ知見を提供するものではないかと考えられます。今後も、ビブリオバトルを継続的に行っていけるよう、学生の動きを見守っていききたいものです。

第5回 ビブリオバトル選考結果

- | | | | | |
|-----------|----|--------|-------------------------|----------|
| ① 電子制御工学科 | 4年 | 高津 こなつ | 「星に願いを、そして手を。」青羽悠著 | (チャンプ本) |
| ② 電子制御工学科 | 2年 | 二岡 葵 | 「24人のビリー・ミリガン」ダニエル・キイス著 | (準チャンプ本) |
| ③ 電気情報工学科 | 2年 | 森田 暖大 | 「まほろ駅前多田便利軒」三浦しをん著 | (佳作) |
| ④ 建築学科 | 4年 | 小椋 一磨 | 「夜空と月の物語」森山晋平編集・文 | (準チャンプ本) |



「リベラルアーツ談話会」をはじめました

教養教育科長 竹内 彰継

工学系学生の教養教育の重要性が叫ばれるようになってきました。そこで、米子高専では他高専に先駆けて平成28年度にリベラルアーツセンターを開設し、教養教育のより一層の充実を図りました。「リベラルアーツ談話会」とは、その一環として本年度よりはじめた企画です。

高専の特徴とは深い趣味を持つマニアックな学生がたくさんいるということです。彼らの知識を教養教育に活用しない手はありません。そこで、リベラルアーツ談話会では深い趣味を持つ学生を講師として、趣味の話題について講演してもらいます。その後、教員が提供された話題を時事問題、社会問題、哲学の問題、技術の問題などと関連付けて発展させます。そして、講演を聞きに来た学生の皆さんに議論してもらいます。

リベラルアーツ談話会の目的は、何か結論を出すことではなく、様々な視点や立場があることを認識してもらい、問題意識を共有してもらうことです。したがって、討論会ではありませんので、議論の優劣や勝敗は競いません。また、自由な発言を尊重しますので、誹謗中傷でない限りタブーも設けないこととしました。期待される効果は、参加学生の文化や社会に対する関心・知識が深まり、時事問題や社会問題などへの問題意識が発展するということです。

第1回リベラルアーツ談話会は5月31日の放課後に

開催しました(図1)。このときの参加学生は12人で、鉄道ファンの学生に関西の私鉄である京阪電車の魅力について語ってもらいました。話題の発展では「講師はなぜ京阪電車というマイナーな私鉄に魅力を感じたのだろうか?」という疑問から「魅力とは何か?」という哲学的問題を扱うことにしました。非常に抽象的な発展内容でしたが、学生の皆さんの反応は良く、アンケート結果の満足度は100%でした。

第2回目は6月21日に開催し(図2)、写真コンテストへの入選実績もある学生に航空機写真を通して写真の魅力について語ってもらいました。話題の発展はシンプルに「芸術論」としました。このとき、参加者は19人に増え、その中には前回参加者も7人いました。また、満足度は前回同様100%でした。

ところで、最近うれしいことがありました。それは、講師を務めた学生が中心となり、11月の高専祭で趣味の展示を行う企画を始めたことです。談話会の主催者としてはうれしいかぎりです。このような活動がますます活発になって行くよう、今後とも魅力ある談話会作りに注力していきたく思います。

最後に、リベラルアーツセンターでは談話会の講師を募集しています。リベラルアーツ談話会は隔月程度で開催していく予定ですので、談話会で紹介するテーマがある学生の皆さんは教養教育科の竹内までご連絡下さい。



図-1
第1回目のテーマは京阪電車の魅力



図-2
第2回目のテーマは写真の魅力



OPAC(図書検索)が新しくなりました。(MY OPAC)

1. MY OPACとは

インターネットを通じてアクセスできる資料・検索ツールなどをあなたの書齋や勉強部屋のように整理しておけるWeb上の図書館です。*インターネットに接続しているPCやスマートフォンがあればどこからでも利用できます。

2. MY OPACでできること

- ・貸出履歴や予約状況の確認(利用者サービス機能) ・学生希望図書のリクエスト(利用者サービス機能)
- ・図書購入申込み(利用者サービス機能・教職員のみ) ・文献複写・貸借の申込み(利用者サービス機能・教職員のみ)
- ・過去に自分が入力した検索ワードを使用したOPAC検索(キーワード履歴機能)
- ・現在の研究・学習分野に関係のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成(ブックマーク機能)

3. 利用方法

米子高専図書館蔵書検索画面(OPAC)から「ログイン」してください。

図書館統計

1.平成28年度 学生利用冊数ベスト10

順位	貸出回数	書名	著者等
1位	54	Study guide and solutions manual for McMurry and Simanek's fundamentals of organic chemistry / 6th ed.	Susan McMurry
2位	34	オペアンプの基礎マスター	堀 桂太郎
3位	28	TOEICテスト公式問題集	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会
4位	19	The blue diamond	Sir Arthur Conan Doyle
5位	18	アトキンス物理化学 上	Peter Atkins, Julio de Paula(著) 千原 秀昭, 中村 亘男(訳)
5位	18	大学編入のための数学問題集	碓氷 久 [ほか]
7位	17	君の臍臓をたべたい	住野 よる
8位	16	電気回路の基礎	西巻 正郎, 森武 昭, 荒井 俊彦
9位	15	大学編入試験問題数学/徹底演習： 微分積分・線形代数・応用数学・確率	林 義実, 小谷 泰介
10位	14	実験で学ぶ生化学	D.T. Plummer (著) 廣海 啓太郎 [ほか] (共訳)

2.平成28年度 利用状況

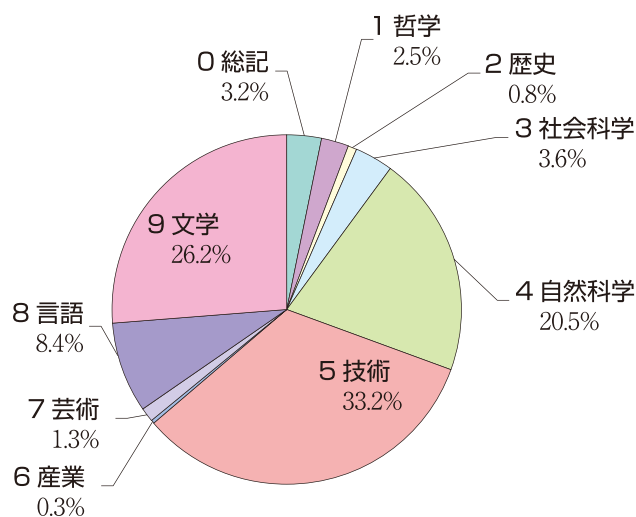
開館日数:284日

区分	学生	教職員	校外者	合計
入館者数	44,026人		846人	44,872人
図書貸出者数	4,468人	487人	129人	5,084人
図書貸出冊数	8,948冊	1,384冊	292冊	10,624冊

3.平成28年4月～29年3月 NDC分類別貸出冊数・貸出率

分類	貸出冊数
0 総記	340
1 哲学	269
2 歴史	86
3 社会科学	377
4 自然科学	2,179
5 技術	3,522
6 産業	34
7 芸術	138
8 言語	891
9 文学	2,788
合計	10,624

順位	分類	貸出率(%)
1位	5 技術	33.2%
2位	9 文学	26.2%
3位	4 自然科学	20.5%
4位	8 言語	8.4%
5位	3 社会科学	3.6%
6位	0 総記	3.2%
7位	1 哲学	2.5%
8位	7 芸術	1.3%
9位	2 歴史	0.8%
10位	6 産業	0.3%
合計		100.0%



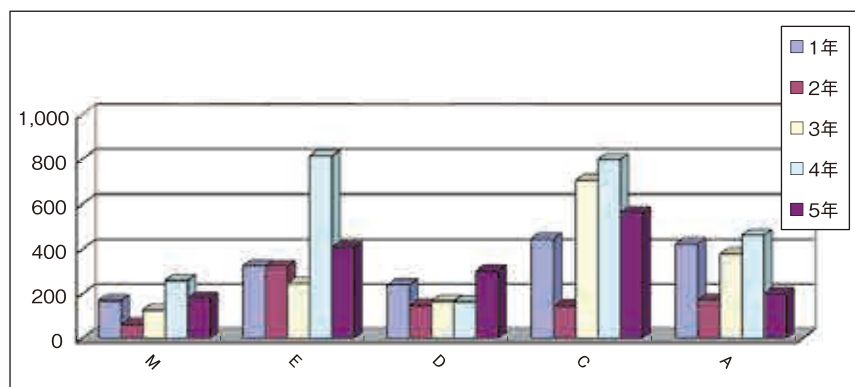
図書館統計

4.平成28年度 学年・学科別貸出冊数

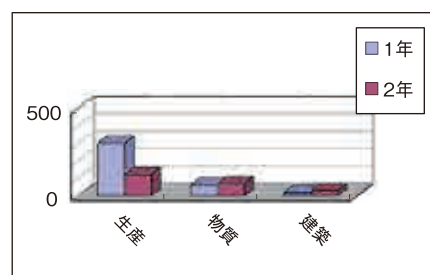
本科・専攻科

学科等 学年	本 科						専攻科				学生計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	計	生産システム工専攻	物質工学専攻	建築学専攻	計	
1年	169	325	239	445	422	1,600	301	62	17	380	
2年	63	324	148	145	172	852	122	69	29	220	
3年	127	247	167	705	378	1,624					
4年	259	813	163	797	461	2,493					
5年	182	407	303	563	202	1,657					
合計	800	2,116	1,020	2,655	1,635	8,226	423	131	46	600	
										研究生	122

平成28年度 本科 学年・学科別貸出冊数



平成28年度 専攻科 貸出冊数



学生図書委員一覧

平成29年度 学生図書委員一覧

〈前期〉【委員長】種 香夏 【副委員長】小野友輔、平井 壘

〈後期〉【委員長】深田唯花 【副委員長】山下海誓、山田ゆかり

学年	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	松下 聡汰	清田 真衣	福元 遼太	足立 美咲	長谷川 千紘
2	栗谷 壮良	八幡 美緒	眞田 穂果	平井 壘	山田 ゆかり
3	加藤 陸生	種 香夏	永田 崇弘	杉本 メグ	深田 唯花
4	山下 海誓	小野 友輔	奥田 海琉	渡辺 舞	岡田 仁子
5	須藤 成美	平井 悠翔	三神 海斗	森田 匠施	中原 優

新着図書一覧 (平成29年3月～平成29年6月)

No	書名	著者等
1	英和 化学用語辞典	荻野 博(編集),大野 公一(編集), 山本 学(編集)
2	和英 化学用語辞典	荻野 博(編集),大野 公一(編集), 山本 学(編集)
3	工事担任者2017春DD3種実戦問題	電気通信工事担任者の会(監修), (株)リックテレコム(編集)
4	この業界・企業でこの「採用テスト」が使われている!【2018年度版】	SPIノートの会(編集)
5	スバラシク実力がつくと評判の偏微分方程式キャンパス・ゼミ 一大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる!	馬場 敬之
6	暗号技術入門 第3版	結城 浩
7	コンビニたそがれ堂	村山 早紀
8	語彙力こそが教養である	齋藤 孝
9	学校では教えてくれない ゆかいな日本語	今野 真二
10	スマホ断食 ネット時代に異議があります	藤原 智美
11	化学の新研究—理系大学受験	卜部 吉庸
12	レインツリーの国(角川文庫)	有川 浩
13	騎士団長殺し:第1部 顕れるアイデア編	村上 春樹
14	騎士団長殺し:第2部 遷ろうメタファー編	村上 春樹
15	出会いなおし	森 絵都
16	か「く」「し」「ご」「と」	住野 よる
17	よるのほけもの	住野 よる
18	この嘘がばれないうちに	川口 俊和
19	素敵な日本人	東野 圭吾
20	ビブリア古書堂の事件手帖—栗子さんと奇妙な客人たち	三上 延
21	ハリネズミの願い	Toon Tellegen(原著), 長山 さき(翻訳)
22	罪の声	塩田 武士
23	ツバキ文具店	小川 糸
24	桜風堂ものがたり	村山 早紀
25	i(アイ)	西 加奈子
26	いのちの車窓から	星野 源
27	崩れる 結婚にまつわる八つの風景	貫井 徳郎
28	考具—考えるための道具、持っていますか?	加藤 昌治
29	新有機化学実験(図解とフローチャートによる)	浅田 誠一
30	みかづき	森 絵都
31	コーヒーが冷めないうちに	川口 俊和
32	無機化学演習(化学入門コース/演習 2)	斉藤 太郎, 井本 秀夫
33	ナノ・マイクロスケール熱物性ハンドブック	日本熱物性学会
34	実用化に向かう波力発電—面白くなる海のエネルギー	渡部 富治
35	21世紀のクリーンな発電として 波力発電—原理から応用まで	渡部 富治, 近藤 一郎
36	無機・分析化学演習—大学院入試問題を中心に(化学演習シリーズ)	竹田 満洲雄 [ほか]
37	はじめてのサイエンス(NHK出版新書)	池上 彰
38	アキラとあきら	池井戸 潤
39	かがみの孤城	辻村 深月
40	劇場	又吉 直樹
41	アノニム	原田 マハ
42	あとは野となれ大和撫子	宮内 悠介
43	電気化学—基礎と応用	Keith B. Oldham [ほか]
44	修身教授録(致知選書)	森 信三
45	星に願いを、そして手を。	青羽 悠
46	24人のピリー・ミリガン[新版] 上	ダニエル・キイス(著), 堀内 静子(翻訳)
47	24人のピリー・ミリガン[新版] 下	ダニエル・キイス(著), 堀内 静子(翻訳)
48	図書館100連発	岡本 真, ふじた まさえ
49	忍びの国	和田 竜
50	ちょっと今から仕事やめてくる	北川 恵海
51	いちまいの絵 生きているうちに見るべき名画(集英社新書)	原田 マハ
52	日本—やさしい天皇の講座(扶桑社新書)	倉山 満
53	未来の年表 人口減少日本でこれから起きること(講談社現代新書)	河合 雅司
54	シリア情勢—終わらない人道危機(岩波新書)	青山 弘之
55	映画と本の意外な関係! (インターナショナル新書)	町山 智浩
56	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1	Educational Testing Service
57	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 2	Educational Testing Service

編集後記

古い『としょぶらり』を見ていくと、中には、教員の旅行記など、図書館や本と直接的な関わりの無い話もしばしば見られます。あるいは、学生の読書感想文やエッセイのみで全12ページを埋めた号があったり、教員の個人的な研究資料の写真がそのまま表紙になっている号があったりと、実に多様です。今号は、赴任して2年目の経験の浅い図書館長補が主に担当したため、過去のものに随分見劣りする面があるのではないかと危惧しております。実のところ、今号の内容には、過去の例を参考にして、非常勤講師の先生の雑感や、教員の出した著書の紹介文といった記事も載せたいと考えましたが、お願いに伺った先生方からはご多忙等を理由にことごとく断られてしまいました。もっと強気でいかなければならなかったかと反省しております。それにしても、このようにお忙しい先生方ばかりであることを知るにつけ、いつから教員はこれほどの仕事量になったのだろうかという興味が湧きます。

『米子高専の50年』という、興味深い本があります。これは、米子高専の教員・事務職員により構成された、米子高専50年誌編集部会によって編集されたものです。中を見ると、本校が開校された昭和39年から、教員がどのような仕事を分担してきたかを辿ることができます。まず開校当時は、3学科のみで、専攻科もありませんでした。図書館もありませんでした。pp.286-289の表を見る限りでは、昭和50年代ごろまで、国際交流や地域との連携といったことも、特に担当する教員を決めていた形跡はありません。相当数の教員がフリーの状態（かなり自由に研究や教育に力を注げる状態）だったのではないかと想像してしまいます。当時の、『米子工業高等専門学校研究報告』（本校の論文集）を見ると、多くの教員が研究論文を投稿していたことがわかりますが、これは、“昔は教員に十分な時間が与えられていた”ということの一端を示すのではないかと思います。

ところが、徐々に、多様な仕事を教員が分担するようになり、学科の新設や専攻科の設置等を経て、仕事量は膨大なものになっていったようです。現在では人手が足りず、限られた教員数で、あちこちの仕事を兼務して回しています。教員は、土日は学会や出前講座、あるいは部活動の引率等に出かけ、平日は授業準備や成績処理、そして山積した仕事を片付けるというサイクルが日常化しました（私個人の状況を元に推測すれば、そのようなこととなります）。その中で、僅かな余力が生じれば、研究に注ぎたいものです。“『としょぶらり』にご寄稿下さい”などと頼んだところで、一蹴されてしまうのも至極当然だったのかもしれない。

図書館に関わる教員も、やはり、上述の多忙化の流れの影響を強く被ってきたようです。平成16年度の状況を見ると、図書館情報センター長、副センター長、センター長補5名の計7名でしたが、そこから毎年のように1人ずつ減員し、昨年度は図書館長1名という状況になっていました。減員されるにつれて図書館でこなすべき業務も減っているのだとしても、さすがに人手不足は否めないのではないのでしょうか。前図書館長からは、大変忙しかったと伺っています。その中であって、今年度は、図書館長補として私に加わることになりました。図書館では新たにリベラルアーツセンターの活動が活発化しつつあり、私などの未熟な者の働きも無駄に出来ないことになってきているのだと考えております。(つ)

平成29年度 読書会についてのお知らせ

読んだ作品について、学科、年齢の垣根を取り払い語り合う。
うまく語れなくても、他の人の感想を聞く。そんな時間があっても…
今年度は6回実施しますので、是非参加してみてください。

第1回	5月18日(木) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『 レインツリーの国 』有川 浩
第2回	6月28日(水) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『 侏儒の言葉 』芥川 龍之介 『 人間失格 』太宰 治
第3回	7月19日(水) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『 キッチン 』吉本 ばなな
第4回	10月10日(火) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『 長い旅の途上 』星野 道夫
第5回	12月19日(火) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『 道化師の蝶 』円城 塔
第6回	平成30年1月23日(火) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『 理系バカと文系バカ 』竹内 薫

※図書館カウンターで前日までに参加申し込みをしてください。

※事前に読んでおいて欲しい作品は図書館で準備しますが、数に限りがあるので留意してください。

※興味のある回だけでもかまいませんので、お気軽にご参加ください。 米子高専リベラルアーツセンター長

とっとり県民カレッジ連携講座

平成29年度 米子高専 文化セミナー

第1回	5月28日(日) 10:00~12:00	古典文法における「…と言ふ」「…と思ふ」の「と」の問題 教養教育科 辻本 桜介 会場: 中海テレビ放送センタービル1階 会議室	第3回	10月22日(日) 10:00~12:00	英語の学習開始年齢と様々な教授法について 教養教育科 鈴木 章子 会場: 中海テレビ放送センタービル1階 会議室
第2回	6月25日(日) 10:00~12:00	気をつけたい食品の取り扱い 物質工学科 遠藤 路子 会場: 中海テレビ放送センタービル1階 会議室	第4回	11月19日(日) 10:00~12:00	過去の建物被害から学ぶ —来るべき地震に備える— 建築学科 稲田 祐二 会場: 米子高専図書館2階 アカデミックシアター

平安時代の日本語において、「…と言ふ」「…と思ふ」などの形で用いられる、引用の助詞「と」について考えます。一見、現代日本語と変わらない使われ方をしますが、よく用例を観察すると、現代とは異なる使われ方の「と」があります。いきなり古典文法に突入すると分かりにくいので、私たちが普段使っている現代の日本語で「と」がどのように使われるかを考えることから始めます。その際、最近の研究の動向として、何人かの文法学者たちの説が、厳しく批判され、否定された経緯にも触れます。このセミナーでは、文科省の助成金により推進中の、最新の古典文法研究の成果の一端をご覧頂けます。

鳥取県を震源とした地震を含め、過去一世紀程度の地震による建物を中心とした被害を挙げて、その原因や特徴を考えてみます。そこから学んだこと(解ったこと)を今後の地震対策に活かす方法を考えていきます。また、建築基準法に規定された我国の耐震に関する基本的な考え方について解説すると共に、建築物の耐震技術に関する最新の事例も紹介します。さらに、耐震診断や耐震改修の意義についても触れ、それぞれの建物はもちろん地域全体の防災、減災につながる心構えとなるようなお話をしたいと思えます。

本文化セミナーは、身近な疑問から最先端技術に至るまで様々な課題をテーマとした講演を年4回ずつ開催しております。ぜひ会場にお立ち寄りください。

第1,2,3回会場: 中海テレビ放送センタービル1階会議室 第4回会場: 米子高専図書館2F アカデミックシアター
(米子市角盤町1丁目55-2/日NHK米子支局) (米子市彦名町4448)
ご利用可能な駐車場はわずかです。近隣の駐車場をご利用ください。 外来者駐車場(正門入ってすぐ)がありますのでご利用ください。